２０１２年5月１５日

各所属長並びに関係の皆様

吃音講習会実行委員会
顧問　牧野　泰美
（国立特別支援教育総合研究所）
代表　　堀　　彰人

第１回　親、教師、言語聴覚士のための吃音講習会のご案内
～吃音否定から吃音肯定への吃音の取り組み～

１　趣　旨

「吃音症状の軽減・消失を指導目標とする従来の吃音観を持ち続ける限り、吃音指導に関わる臨床家の悩み、どもる子どもの悩みが解消されることはない。私たちは、この古い吃音観を転換し、新しい視点に立った子どもへの支援のあり方を探る必要性を実感し、講習会を開催する」

２００１年に岐阜大学で、愛媛大学・水町俊郎教授（当時）、岐阜大学・廣嶌忍助教授（当時）、日本吃音臨床研究会・伊藤伸二会長を中心に、「第１回臨床家のための吃音講習会」がこの開催趣旨のもと開かれました。そして第４回の島根大会まで、言語関係図や吃音評価、自己概念教育などが取り上げられました。

この講習会で提示された、吃音を治すのではなく、吃音をどう生きるかという考えは、日々の現場の中で、どもる子どもとどう関わっていけばよいか、迷い、悩む私たちにとって、非常にインパクトのある内容でした。そして様々な取り組みやどもる人や保護者の体験から、私たちことばの教室担当者は多くのことを知り、学び、それを目の前にいるどもる子どもたちとの日々の実践に繋げていきました。さらに、ここで示された実践や考えが、１５名の仲間の教師と作った、『親、教師、言語聴覚士が使える　吃音ワークブック』（解放出版社）に結びつきました。

第１回講習会以降のこの１０年間で、どもる子どもたちを取り巻く状況はどうなったのでしょうか。吃音を生きることを大切にしたアプローチが少しずつ拡がる一方で、依然として吃音の改善がどもる子どもや保護者のニーズだとする提案もなされ、むしろ近年こうした流れが強まっているように思われます。そこで今回、教師や言語聴覚士だけでなく、保護者も交えて、「どもる子どもたちと、吃音の何を学び合い、何に取り組むか」を考える講習会を開きたいと考えました。

どもる子どもたちと関わる方、吃音に関心のある方々の幅広い参加をお待ちしています。

実行委員会事務局長　渡邉美穂　（千葉市立あやめ台小学校）

２　主　催　　吃音を生きる子どもに同行する教師の会（事務局　千葉市立あやめ台小　渡邉美穂）
NPO 法人大阪スタタリングプロジェクト（代表　東野晃之）
日本吃音臨床研究会（代表　大阪教育大学非常勤講師　伊藤伸二）

３　後　援　　千葉市教育委員会
ＮＰＯ法人全国ことばを育む会
千葉市ことばを育む会
千葉県教育委員会（申請中）

４　日　時　　２０１２年8月４日（土）１０：００～２０：４５
5日（日）　９：００～１６：００

５　会　場　　千葉県教育会館
〒２６０－００１３　千葉市中央区中央４－１３－１０
ＴＥＬ　０４３－２２７－６１４１　　ＦＡＸ　０４３－２２７－４５５５
アクセス ◎徒歩ＪＲ千葉駅２０分、ＪＲ本千葉駅１２分、京成千葉中央駅１２分
◎バス（ＪＲ千葉駅東口２、３番より乗車）中央４丁目下車　徒歩３分

６　内容・テーマ

「吃音否定から吃音肯定へ」

吃音臨床は、「吃音否定」を前提に進められてきました。かつて、公立小学校のことばの教室は、言語治療教室として出発し、言語聴覚士は、「吃音治療学」を学び、吃音を治療の対象としています。原因が解明され、治療法があっての「吃音治療学」で、実際に多くの人の吃音が治り、改善されるのであれば、「吃音否定」の前提もあまり問題はないでしょう。しかし、吃音の原因は解明できず、治療法はなく、治らない吃音が多い中で、「吃音否定」の前提が、「治さなければならない」と吃音の当事者や親を長年追い詰めてきました。吃音を否定することで、吃音を隠し、どもりたくないために、話すことから逃げ、対人関係に消極的になり、それが人生へも影響する人が少なくなかったのです。吃音に悩む人にとって、それは、深刻で大きな問題となっています。

「吃音肯定」の臨床には、まず、これまでどもる子どもやどもる人に向けられてきた否定的なまなざしを、肯定的なものへと転換する必要があります。悩みから解放され、吃音にまつわるネガティヴな物語から、「どもりでよかった」とさえ言うような吃音肯定の物語を、当事者だけでなく、どもる子どもに関わる人々と共有したいと思います。

この新しい転換を推し進めるために、精神医療、福祉、心理臨床の分野で大きな注目を集め始めている、ナラティヴ・アプローチや当事者研究などの理論や手法を学んでいこうとしています。

新しく担当になった人も、長年経験のある人も、リラックスした雰囲気の中で楽しく学び合います。

７　講師　＜記念講演＞　浜田　寿美男　奈良女子大学名誉教授

１９４７年香川県生まれ。発達心理学・法心理学者。発達心理学を批判的に捉え、「私」というものがどのように成り立っていくかを主要テーマにしている。また、冤罪事件での自白や目撃の心理に関心をよせ、それらの供述鑑定にも関わる。現在、兵庫県・川西市子どもの人権オンブズパーソン。

著書に、自閉症など、障害のある人の生活世界を描いた『障害と子どもたちの生きるかたち』（岩波現代文庫）、自閉症の子どもの自我形成の問題から発想して理論化を試みた『「私」とは何か』（講談社）、無実の人の自白を論じた『自白の心理学』（岩波新書）、『発達心理学再考のための序説』（ミネルヴァ書房）、『＜うそ＞を見抜く心理学』（NHK ブックス）ほか多数。

＜基調提案＞　伊藤　伸二　大阪教育大学非常勤講師

１９４４年、奈良県生まれ。日本吃音臨床研究会会長。小学校２年生の秋、どもるため学芸会の主役を降ろされて吃音に劣等感をもち、悩み始める。２１歳の時、セルフヘルプグループ言友会を創立。大阪教育大学専任講師（言語障害児教育）などを経て、ライフワークである吃音に取り組む。

第１回吃音問題研究国際大会を大会会長として運営。現在４０か国以上が加盟する国際吃音連盟の礎を作る。１９９４年、日本吃音臨床研究会を設立。論理療法、交流分析、アサーティブ・トレーニング、認知行動療法などを活用し、吃音と上手につきあうことを探る。著書に、『ストレスや苦手とつきあうための　認知療法・認知行動療法～吃音とのつきあいを通して』（金子書房）、『親、教師、言語聴覚士が使える、吃音ワークブック～どもる子どもの生きぬく力が育つ』（解放出版社）、『どもる君へ　いま伝えたいこと』（解放出版社）、他多数。

＜対談司会＞　牧野　泰美　国立特別支援教育総合研究所主任研究員

岐阜県生まれ。横浜国立大学大学院教育学研究科障害児教育専攻修了後、岐阜県立岐阜聾学校教諭を経て、１９９２年８月より国立特別支援教育総合研究所。現在、主任研究員。専門は言語障害児教育、言語獲得、コミュニケーション障害とその支援など。「全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会（全難言協）」をはじめ、各地の「きこえとことばの教室」の担当者や、親の会等と連携しながら、子どものことばやコミュニケーションへの支援の在り方、きこえとことばの教室の役割などについて研究活動を進める。教員養成の大学や言語聴覚士養成の専門学校で言語理論や言語指導の講義も担当している。著書に、『言語障害のおともだち』（ミネルヴァ書房）。論文は「言語に障害のある子どもの教育と自己肯定感への支援（発達、１０６号）」（ミネルヴァ書房）、「関係論的視座からのコミュニケーション障害研究の動向（特殊教育学研究、第４２巻第１号）」日本特殊教育学会、他多数。

8　日　程

【第１日・８月４日（土）】

10:00　10:20 10:30　　12:30　13:30　　15:30　16:00　　18:00　19:15　20:45

受付	**開会**	**基調提案** 伊藤伸二 **新しい吃音臨床の提案～吃音否定から吃音肯定へ～** （仮題）	休憩 (昼食)	**講演** 浜田寿美男 **障害と子どもたちの生きるかたち** （仮題）	休憩	**対談** 浜田寿美男 伊藤伸二 司会：牧野泰美 **治す文化に対抗する力** （仮題）	休憩 (夕食)	**グループや全体で話し合い**

【第２日・８月５日（日）】

9:00　　12:00　13:00　　16:00　16:45

ことばの教室担当者や言語聴覚士による、子どもへの取り組み ことばの教室担当者や言語聴覚士、どもる人の体験・実践発表をもとに全体で討議する。	休憩 (昼食)	**親による、どもる子どもへの関わり** **ことばの教室担当者や言語聴覚士による、親への関わり** 実際の保護者の相談・面接を通して、親の子どもへの関わりを考える。	**全体討議**

9　参加費　　５，０００円

10　参加申し込み

参加ご希望の方は、参加申込書に必要事項を記入し、郵送、またはメールに添付し下記の申し込み先までお送りください。折り返し参加費送金用の振込用紙をお送りします。入金確認ができましたら、受講票をお送りします。

申し込み締め切りは２０１２年７月２５日（水）です。なお、参加費は当日キャンセルされてもお返しできません。受講票は他の方にお譲り下さい。

11　申し込み先　吃音講習会事務局　千葉市立あやめ台小学校　渡邉美穂

〒２６３－００５１　千葉市稲毛区園生町４４６－１

Mail：kituon-kosyukai@live.jp

12　実践発表について

今回の講習会のテーマに沿ったみなさんの実践発表を受け付けます。発表を希望される方は、その旨お知らせ下さい。詳細について折り返しご連絡いたします。ふるってご応募下さい。

13　実践発表、その他電話によるお問い合わせ先

日本吃音臨床研究会　ＴＥＬ／ＦＡＸ　０７２－８２０－８２４４

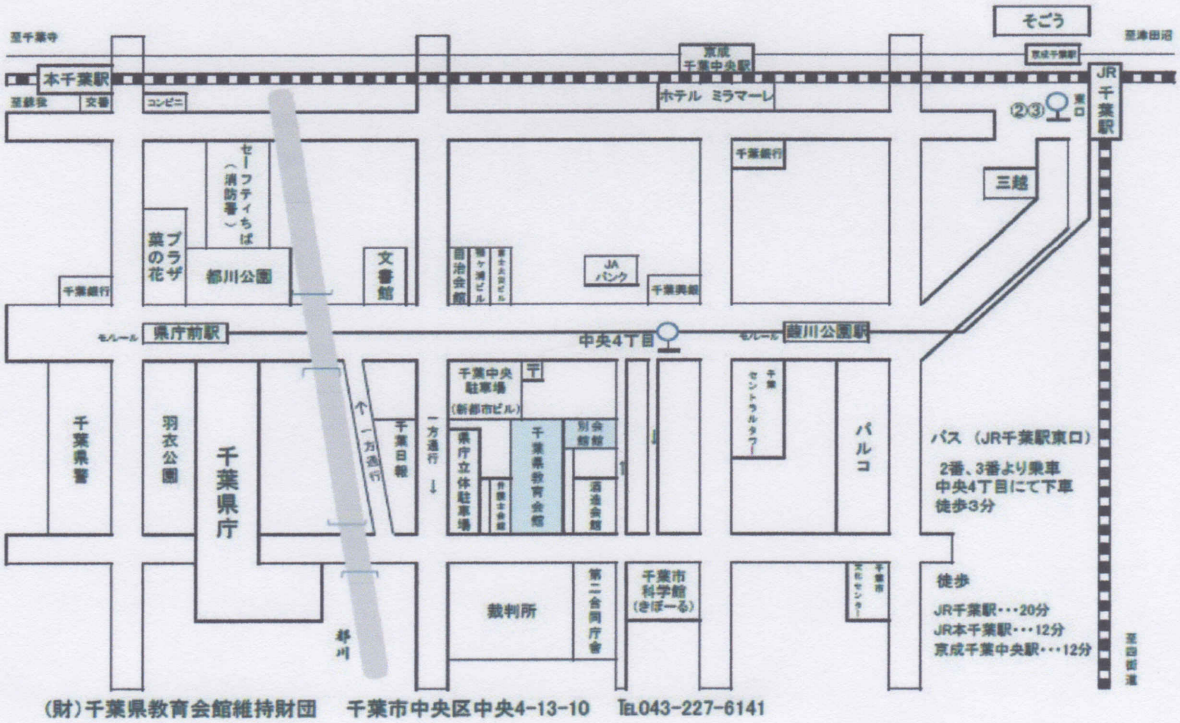
〒５７２－０８５０　大阪府寝屋川市打上高塚町１－２－１５２６

14　宿泊その他

宿泊につきましては、各自直接お申し込み下さい。参考までに千葉市内のいくつかのホテルを紹介します。また、講習会中の食事に関しては、教育会館１F のローソンもしくは周辺のファミリーレストラン・食堂等をご利用下さい。なお、研修会場内での飲食も可能です。

千葉ワシントンホテル　千葉県千葉市中央区富士見 1-13-1
　TEL：０４３－２２２－４５１１
ホテルルートイン千葉　千葉県千葉市中央区本千葉町 8-18
　TEL：０４３-２０１-１１６０
三井ガーデンホテル千葉　千葉県千葉市中央区中央 1-11-1
　TEL：０４３－２２４－１１３１
東横 INN 千葉駅前　千葉県中央区富士見 1-14-6
　TEL：０４３－２２７－１０４５
東横イン千葉駅東口　千葉県千葉市中央区富士見 1-9-12
　TEL：０４３－２０１－１０４５
京成ホテル　ミラマーレ　千葉県千葉市中央区本千葉町 15-1
　TEL：０４３-２２２-２１１１
スーパーホテル千葉駅前　千葉県千葉市中央区弁天 1-15-10
　TEL：０４３－２５５－９０００
ホテルプラザ菜の花　千葉県千葉市中央区長洲 1-8-1
　TEL：０４３-２２２-８２７１

15　会場案内図



第１回　親、教師、言語聴覚士のための吃音講習会　参加申込書

ふりがな 氏　　名		保護者・当事者・言語聴覚士・教師 （いずれかに〇を付けてください）	
所 属 等			
自宅住所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
Ｍａｉｌ			

■参加者交流メッセージ

吃音、どもる子どもとの関わりや、吃音臨床について日ごろ感じていること、考えていること、今回の講習会に向けてのご自身の課題、意気込み等お書き下さい。参加者同士の交流資料として会場に提示したいと思います。

都道府県		氏名		所属等	

■その他連絡事項等